

# 「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-イ	陸域・水辺環境の保全	
施策	①自然保護地域の指定等		
(施策の小項目)	○自然保護地域の指定等		
主な取組	自然環境保全地域指定事業	実施計画 記載頁	16
対応する 主な課題	○沖縄の優れた風致景観や生物多様性を支える地域を保全するため、自然保護地域の適正な配置・管理、新たな保護地域の指定を推進することが求められている。		

## 1 取組の概要(Plan)

取組内容	・生物多様性を支える自然度の高い地域の自然環境を保全するため、自然環境保全地域の指定、管理を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	12地域 指定数				14地域 (累計)		県
	自然環境保全地域指定					→	
担当部課	環境部 自然保護課						

## 2 取組の状況(Do)

### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
自然環境保全地域指定事業費	552	552	・自然環境保全地域の指定に向けた考え方の整理及び各自然環境保全地域の管理	県単等
活動指標名			計画値	実績値
(自然環境保全地域)指定数			14地域(28年)	12地域(28年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
大幅遅れ	・既存の自然環境保全地域を管理することにより、当該地域の自然環境の保全が図られた。しかしながら、新たな指定に向けた考え方(候補地の選定方法、必要となる調査の内容、手続き等)の整理が遅れており、計画値では14地域となっているが、実績値は12地域となっており、進捗状況は大幅遅れとなっている。			

### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
自然環境保全地域指定事業費	552	・自然環境保全地域の指定に向けた考え方の整理及び各自然環境保全地域の管理	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①新たな指定に向けた考え方(候補地の選定方法、必要となる調査の内容、手続き等)の整理が遅れていることから、当該考え方を整理し、それに基づき、新たな指定に向けた体制を整え候補地の選定や関係者との調整等を進める。</p> <p>②市町村担当者との意見交換の場等で、周知徹底を図る。</p>	<p>①候補地の選定方法について検討したが、必要となる調査の内容、手続き等の整理が遅れており、新たな指定に向けた体制も整っていない状況である。</p> <p>②8月及び9月に行った市町村担当者との調整の場でも、周知を図った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
自然保護区域面積	53,473ha (23年)	54,299ha (28年)	54,542ha (28年)	826ha	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>成果指標について、基準値(53,473ha)から826ha改善されたものの、現状値が54,299haと目標値は達成できなかった。</p> <p>新たな指定に向けた考え方(候補地の選定方法、必要となる調査の内容、手続き等)の整理が遅れており、新たな指定に向けた体制が整っておらず、新たな保護区等の設置に至っていないことが要因である。今後は、指定に向けた考え方を整理するとともに、必要に応じて市町村等から情報収集を行い、保護区等の設置を推進していく。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな自然環境保全地域の指定に向けて体制整備を図り、選定に向けた現地調査を行う必要がある。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業関係者や地元市町村など関係機関と、指定された場合の規制等に関する調整など指定に向けた手続きが必要となる</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな指定に向けた考え方を整理し、必要な体制を整え、候補地の選定や関係者との調整等を進める。</li> </ul>
---

#### 4 取組の改善案(Action)

- ・新たな指定に向けた考え方(候補地の選定方法、必要となる調査の内容、手続き等)の整理が遅れていることから、当該考え方を整理し、それに基づき、新たな指定に向けた体制を整え候補地の選定や関係者との調整等を進める。
- ・市町村担当者との意見交換の場等で、周知を図る。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-イ	陸域・水辺環境の保全		
施策	①自然保護地域の指定等			
(施策の小項目)	○自然保護地域の指定等			
主な取組	鳥獣保護区設定事業	実施計画 記載頁	16	
対応する 主な課題	○沖縄の優れた風致景観や生物多様性を支える地域を保全するため、自然保護地域の適正な配置・管理、新たな保護地域の指定を推進することが求められている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	・生物多様性を支える地域を保全するため、鳥獣の保護を図るための鳥獣保護区を指定し、管理を行う。							
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体	
	25地区 鳥獣保護区 数			→	31地区 (累計)	→		県
	鳥獣保護区の指定							
担当部課	環境部 自然保護課							

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
特殊鳥類等 生息環境調 査費	5,631	5,590	・鳥獣保護区の指定・更新に向けた調査の実施及び看板の維持管理	県単等
活動指標名			計画値	実績値
鳥獣保護区数			31地区(28年)	27地区(28年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成28年度は新たな鳥獣保護区の指定はなかったが、既存の鳥獣保護区内での鳥類飛来数調査及び制札板の設置等の管理業務により、鳥獣保護区の位置・範囲について広く周知を図ることができ、鳥獣保護区における鳥獣の保護に資することができた。 さらに、新たな指定については、候補地(5箇所)の所在する自治体へ働きかけを行うなど、平成29年度の指定に向けて取り組んだため、概ね順調と判断した。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
特殊鳥類等 生息環境調 査費	587	・鳥獣保護区の指定・更新に向けた調査の実施及び看板の維持管理		県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①地元自治体に対して、鳥獣保護区の新規指定について理解が得られるよう働きかけを継続する。 ②新規指定候補地について第12次鳥獣保護管理事業計画に位置づけられるよう、調整を図る。	①鳥獣保護区の新規指定について、地元自治体への働きかけを継続した。 ②第12次鳥獣保護管理事業計画(平成29年度～平成33年度)に、7カ所の候補地を位置づけた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
自然保護区域面積	53,473ha (23年)	54,299ha (28年)	54,542ha (28年)	826ha	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	地元自治体等との調整が難航し、新たな自然環境保全地域及び鳥獣保護区の指定はなかったことから、H28目標値は達成できなかったが、基準値から826haの改善が見られた。今後も引き続き、粘り強く地元自治体等への働きかけを行うことが必要である。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の保全のため、新たな鳥獣保護区の指定に向けた取組が必要</li> <li>・地元市町村などの関係機関と、指定された場合の規制などに関する調整など指定に向けた手続きが必要</li> <li>・新たな候補地の選定のためには鳥獣等生息実態調査が必要</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規指定候補地の自治体等からの賛意が得られるかが課題である。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元自治体に対して、鳥獣保護区の新規指定について理解が得られるよう働きかけを継続する必要がある。</li> <li>・第12次鳥獣保護管理事業計画に位置づけた新規指定候補地について、指定に向けた具体的調整を図る必要がある。</li> </ul>
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元自治体に対して、鳥獣保護区の新規指定について理解が得られるよう働きかけを継続する。</li> <li>・第12次鳥獣保護管理事業計画に位置づけた新規指定候補地について、指定に向けた具体的調整を図る。</li> </ul>
--

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-イ	陸域・水辺環境の保全		
施策	①自然保護地域の指定等			
(施策の小項目)	○自然保護地域の指定等			
主な取組	やんばる地域の国立公園化及び世界自然遺産普及啓発事業	実施計画 記載頁	16頁	
対応する 主な課題	○琉球諸島は、世界自然遺産登録候補地として高く評価されているが、自然環境保全に向けた法的担保(国立公園化)や生態系を脅かす外来種の駆除など、登録に向けての取組の推進が求められている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	世界自然遺産候補地であるやんばる地域の自然環境を保全するため、やんばる地域の国立公園化に向けた取組を実施し、地域住民等への遺産価値の理解を促進するための世界自然遺産登録に向けたフォーラムや説明会を開催する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	年1回 フォーラム等 開催数				→	→	国、県
	やんばるの国立公園化に向けたイベント等の開催						
	世界自然遺産登録に向けたフォーラムの開催						
担当部課	環境部 自然保護課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
世界自然遺産登録推進事業	100,419	130,861	やんばるの国立公園化を記念した除幕式、式典、祝賀会を開催した。また、世界自然遺産登録に向けて、県民への普及啓発を目的にフォーラムを開催した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
フォーラム開催数			年1回 (H28)	年1回 (H28)
イベント等の開催数			年2回 (H28)	年3回 (H28)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	やんばるの国立公園化については、国、地元3村及び関係者との長年に渡る調整の結果、平成28年9月15日に国内33カ所目の国立公園として新規指定された。また、指定を記念して、平成29年2月26日に除幕式、式典、祝賀会を開催した。 世界自然遺産普及啓発については、世界自然遺産ともなる沖縄県の自然環境について県民への理解を醸成するため、世界自然遺産登録に向けたフォーラムを開催した。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
—	—	やんばる地域及び西表島の世界自然遺産登録推進のため、フォーラム等を地元において開催する。また、昨年度に作成した普及啓発ツールを用いて、引き続き県民等への世界自然遺産の理解を浸透させるとともに、航空機等を活用した新たな手法を用いた更なる普及啓発を実施する。	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①地元説明会や意見交換会を開催することにより、地元の意見を集約及び把握し、今後の世界自然遺産登録の早期実現に向け、どのような取組が効果的なのかの検証を行う。	①平成28年度からソフト交付金を活用した世界自然遺産の普及啓発事業を実施し、パンフレットや映像コンテンツ等の普及啓発ツールの作成・配布やフォーラムの開催等を行うことにより、世界遺産の普及啓発を実施した。また、アンケート等を実施することで県民の意見等を把握し、今後の世界自然遺産登録の早期実現に向け、どのような取組が効果的なのかを検証を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>やんばるの国立公園化については、国、地元3村及び関係者との長年に渡る調整の結果、平成28年9月15日に国内33カ所目の国立公園として新規指定された。</p> <p>また、世界自然遺産普及啓発については、平成28年度からソフト交付金を活用した取組を展開することにより、県民等へ世界自然への普及啓発をこれまでにない規模で実施することができた。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>・世界自然遺産登録の実現及び登録後も持続的に自然環境を保全するためには、引き続き国、県、地元町村並びに関係団体と連携し取り組む必要がある。</p> <p>○外部環境の変化</p> <p>・やんばる国立公園の新規指定等、遺産候補地の法的な保護担保措置が整ったことを受け、平成29年2月1日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に係る推薦書がユネスコ世界遺産センターへ提出された。</p>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・県内における世界自然遺産登録に向けた状況(地元地域の意識)を把握した上で、世界自然遺産登録に向けた更なる取組につなげる必要がある。</p>
---

4 取組の改善案(Action)

<p>・世界自然遺産登録の実現に向け、県民等への遺産価値のより一層の理解を浸透させるため、更なる世界自然遺産の普及啓発に取り組む。</p>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-イ	陸域・水辺環境の保全		
施策	①自然保護地域の指定等			
(施策の小項目)	○自然保護地域の指定等			
主な取組	世界自然遺産登録推進事業	実施計画 記載頁	16頁	
対応する 主な課題	○琉球諸島は、世界自然遺産登録候補地として高く評価されているが、自然環境保全に向けた法的担保(国立公園化)や生態系を脅かす外来種の駆除など、登録に向けての取組の推進が求められている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	世界自然遺産登録を早期に実現し、登録後の遺産価値の維持と適正な利活用の両立を図るため、次の事業に取組む。 1 地域別の行動計画の策定 2 イリオモテヤマネコ交通事故防止対策基本計画の策定 3 ノイヌ・ノネコ対策事業 4 拠点整備構想の策定 5 普及啓発の推進						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		推薦書作成に必要なデータ収集(調査等)	世界自然遺産候補地における自然環境の利用と保全の現状と将来の需要予測、対策の検討	地域別の行動計画及び拠点整備構想の策定や希少動物の保護対策、県民等への普及	遺産価値の維持と適正な利活用の両立のため、エコツーリズムの推進、普及啓発等の取組を	県	
担当部課	環境部 自然保護課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
世界自然遺産登録推進事業	131,024	130,861	世界自然遺産登録を早期に実現し、登録後の遺産価値の維持と適正な利活用の両立を図るため、地域別の行動計画の策定やイリオモテヤマネコ交通事故防止対策の検証、ノイヌ・ノネコ対策の検討、拠点整備構想の策定、普及啓発事業を実施した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	世界自然遺産推薦地である沖縄島北部及び西表島の地域別の行動計画を策定し、イリオモテヤマネコ交通事故防止対策の実証、ノイヌ・ノネコによる希少生物被害の状況調査及び対策の検討、拠点整備構想の策定、パンフレットや映像コンテンツ等の普及啓発ツール作成し、普及啓発を実施した。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
世界自然遺産登録推進事業	95,197	世界自然遺産登録を早期に実現し、登録後の遺産価値の維持と適正な利活用の両立を図るため、次の事業に取組む。 1 地域別の行動計画の検証及び地域部会の運営 2 適正利用とエコツーリズムの推進 3 イリオモテヤマネコ交通事故防止対策基本計画の策定 4 ノイヌ・ノネコ対策事業 5 普及啓発の更なる推進	一括交付金 (ソフト)



様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①国や地元関係団体等と連携して、やんばる・西表島それぞれの地域での地域別の行動計画の策定に向けた取組を実施する。 ②遺産価値の維持のための希少生物を保全の取組として、イリオモテヤマネコ交通事故防止対策に向けた検討会及び実証実験や、ノイヌ・ノネコによる希少生物被害状況調査及び対策の検討を実施する。 ③県民への遺産価値の普及啓発を図るため、普及啓発用のコンテンツ等の作成やフォーラム開催に向けた準備などを実施する。	①沖縄島北部及び西表島において、関係行政機関や地元関係団体等からなる地域部会を開催し、地域別の行動計画を策定した。 ②希少生物を保全の取組として、イリオモテヤマネコ交通事故防止対策に向けた検討会及び実証実験や、ノイヌ・ノネコによる希少生物被害状況調査及び対策の検討を実施した。 ③県民への遺産価値の理解の浸透を図るため、普及啓発用のコンテンツ等の作成・配布や、フォーラムの開催等の普及啓発の取組を実施した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	平成29年2月1日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に係る推薦書がユネスコ世界自然遺産センターに提出されたところであり、今後は夏から秋ごろまでに諮問機関IUCNの現地調査及び評価が行われることとなる。その調査及び評価では、現地における管理体制等も問われることとなるため、地域が実施する管理計画の策定や希少動物保護対策、適正利用の推進、普及啓発等を行う必要がある。
------	---

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界自然遺産に登録されるには、その登録基準を満たし、恒久的に保護・保全を図る必要があるため、その対策を検討し整備する必要がある。</li> <li>・世界自然遺産登録の実現及び登録後も持続的に自然環境を保全するためには、引き続き国、県、地元町村並びに関係団体と連携し取り組む必要がある。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やんばる国立公園の新規指定等、遺産候補地の法的な保護担保措置が整ったことを受け、平成29年2月1日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に係る推薦書がユネスコ世界遺産センターへ提出された。</li> </ul>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界自然遺産登録の実現及び登録後の遺産価値の保全とその適正な利活用を図っていくために、国、県、地元町村並びに関係団体が連携して取り組む行動計画を策定する必要がある。</li> <li>・遺産価値である生物多様性や生態系を維持するため、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等の希少生物保全のための更なる取組を実施する必要がある。</li> <li>・県民への奄美・琉球の世界自然遺産の普及啓発を図り、遺産登録に向けた意識を醸成する必要がある。</li> </ul>
--

#### 4 取組の改善案(Action)

- ・国、県、地元町村並びに関係団体と連携して、やんばる・西表島それぞれの地域での地域別の行動計画の策定に向けた取組を実施する。
- ・遺産価値の維持のための希少生物を保全の取組として、イリオモテヤマネコ交通事故防止対策に向けた検討会や実証実験や、ノイヌ・ノネコによる希少生物被害状況調査及び対策の検討を実施する。
- ・県民への遺産価値の普及啓発を図るため、普及啓発用のコンテンツ等の作成やフォーラム開催に向けた準備などを実施する。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-イ	陸域・水辺環境の保全		
施策	①自然保護地域の指定等			
(施策の小項目)	○自然公園の利用の増進			
主な取組	自然公園の施設整備	実施計画 記載頁	16頁	
対応する 主な課題	○世界自然遺産推薦地やんばる地域及び西表島において、遺産価値の維持と適正な利活用の両立を図るため、希少種の保護、外来種対策、オーバーユース対策、普及啓発等の取組を推進することが求められている			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	自然とのふれあいの推進を図るため、自然公園施設の整備を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
					1件 施設整備箇所数 自然公園施設整備	→	県
担当部課	環境部 自然保護課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
自然公園施設整備事業費(補助事業)	18,831	2,321	沖縄海岸国定公園運天森園地(今帰仁村)の休憩所の設計を行った。 沖縄海岸国定公園具志頭園地(八重瀬町)の休憩所整備工事について、2回の入札不調により工事着手できず平成29年度へ繰り越した。	一括交付金 (ハード)
活動指標名			計画値	実績値
自然公園施設整備 箇所数			1 (H28)	0 (H28)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
やや遅れ	平成28年度から平成33年度まで4箇所整備(計画値)に対して、平成28年度に予定していた1箇所で遅れが生じたことから、25%の遅れとなり、やや遅れとした。 平成29年度は設計を行った運天森園地と繰り越した具志頭園地の工事を行うため、挽回できる見込み。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
自然公園施設整備事業費(補助事業)	20,274	沖縄海岸国定公園運天森園地(今帰仁村)の休憩所の整備工事を行う。 沖縄海岸国定公園茅打ちバンタ園地(国頭村)の休憩所の設計を行う。	一括交付金 (ハード)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
—	—

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	自然公園の施設整備により、自然とのふれあいの推進及び自然環境の保全が図られ、自然遺産価値の維持と適正な利活用の増進に寄与している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備資料が多く遅れがちとなる交付金交付申請手続きを早期に行う必要がある。</li> <li>・入札不調により工事着手が遅れたことから、より適切な入札手続き方法を検証する必要がある。</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <p>—</p>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業進捗の遅れを解消するため、工事発注機関との情報共有を強化する必要がある。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事発注機関との情報共有を強化し、例年6月に実施していた交付申請できる限り早期に行い、早期に工事発注を行う。</li> <li>・発注方法を指名競争入札方式から一般競争入札方式に見直し、入札不調が発生しないよう努める。</li> </ul>
--